

柴田町社会福祉協議会
令和5年度 地域支えあい推進研修会

地域共生社会の実現に向けた 包括的な支援体制の整備

～「藤沢型地域包括ケア」が目指す世代や属性を超えた支えあいの地域づくり～



「キュんとするまち。藤沢」
公式マスコットキャラクター ふじキュン♡

2023年（令和5年）7月24日
藤沢市福祉部 地域共生社会推進室



【神奈川県藤沢市の概要】

面積： 69.56 km²

人口： 444,053 人

世帯数： 201,733 世帯

※2023年6月1日時点

令和2年国勢調査結果を基準とした推計値

【鉄道交通】鉄道路線の駅数

J R東海道本線 2 駅

→JR横浜駅から藤沢駅まで、約20分

小田急江ノ島線 9 駅

江ノ島電鉄線 6 駅 相鉄いずみ野線 1 駅

横浜市営地下鉄 1 駅 湘南モノレール 2 駅

【名所・観光】

江の島、遊行寺、湘南海岸、新江ノ島水族館



【 本日本日お伝えしたいこと 】

- これからの超少子高齢化の社会において、住民を取り巻く生活環境は、どう変化していくか
- “包括的な相談支援” が必要とされる理由
- 藤沢市での体制づくり



【 本日本日お伝えしたいこと 】

■ これからの超少子高齢化の社会において、住民を取り巻く生活環境は、どう変化していくか

■ “包括的な相談支援” が必要とされる理由

■ 藤沢市での体制づくり



■ 2025年問題 ■

2025年には、団塊の世代（人口が多い）が75歳を迎える。

※ 健康寿命は男性72.68歳・女性75.38歳
→ 健康寿命 \leq 75歳 （令和元年データ）
（平均寿命 男性81.41歳 女性87.45歳）

→ 医療や介護のニーズが増大

※ 健康寿命とは、元気に自立して生活できる期間のこと
⇒ 健康寿命を過ぎると、支援や介護が必要になる方が増加

■ 2040年問題 ■

2040年には、さらに少子高齢化が進み、団塊世代の多くが人生の終わりを迎える。

【日本の年間死亡者数】

2017年	年間	134万397人
2040年前後	年間	167万人程度と推計

→ 多元社会 (多死社会…)

現在よりも
約30万人増

様々な“変化”…

◆人口構造の変化

- 高齢者人口、要介護高齢者の増加
(平均寿命は延びたが健康寿命は伸びない、認知症高齢者の急増など)

◆世帯構造の変化

- 家族構成の変化
(世帯の規模縮小、家族介護者の増加、介護者と被介護者の関係の多様化など)

◆地域のつながりの変化

- 地縁・縁の希薄化、地域住民との関係性
(“向こう三軒両隣り” は、もう死語…)

◆孤独・孤立の問題

- 上記の要因に加え、生活困窮、引きこもり、依存症、8050問題など、家族が抱える生活課題が表面化しにくい、潜在化する傾向



【 本日本日お伝えしたいこと 】

- これからの超少子高齢化の社会において、住民を取り巻く生活環境は、どう変化していくか

- “包括的な相談支援” が必要とされる理由

- 藤沢市での体制づくり



【生活課題①】

課題の多様化

生活困窮

仕事もなく経済的に生活できるか不安…

生活支援をして欲しいけど…福祉サービスって？

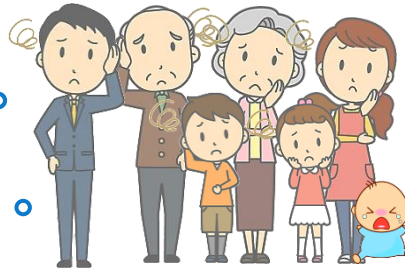
8050問題

うちの子、もう何年も引きこもってる…

病気やけがの治療が不安…退院後も…

親亡き後

うちの子、障がいがあるけど、私が居なくなったらどうしよう



親の介護はどうすればいいんだろう…

ダブルケア

これから先、一人で産んで一人で育てていくのかな…

一人暮らしなんだけど、誰か側で支えてくれないかな…

母子の孤立

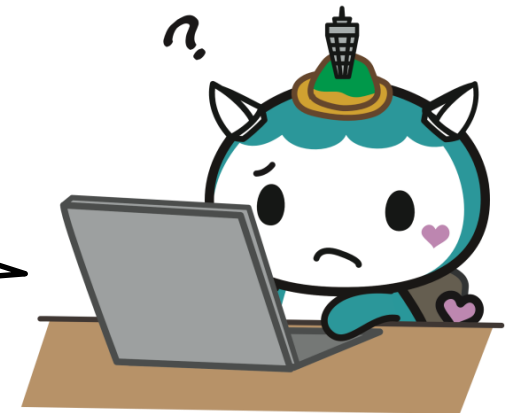
子育ての話…だれか聞いてくれないかな…

お腹がすいた…あたたかいご飯が食べたいな…

子どもの貧困

妊娠、出産、子育て、介護、障がい、生活困窮、社会的
孤立等、地域に住む人の抱える不安や課題は、「高齢」
「障がい」「子ども」などの分野を問いません

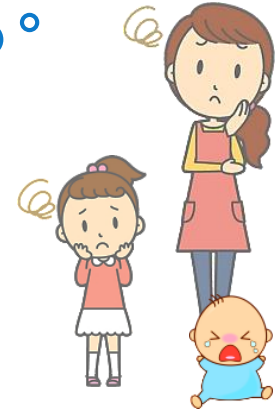
誰にでも起こりうる
身近な問題かも・・・



【生活課題②】



親の介護と、子育ての
両方に課題



課題の複合化・
複雑化

自分は年金生活
でも、
息子が働かず家にいる



ひとり親、子どもは小学生
だから、十分働けない

世帯が少人数化する中、課題が多くて一人では抱えきれない、「介護」と「子育て」「障がい」と「経済的困窮」など、課題は複雑化、複合化しています。

困っていることが
他にもあるかも・・・



市民アンケート調査から

○地域福祉に関するアンケート調査

※2019年（令和元年）・2022年（令和4年）実施

15歳以上の市民4,000人（無作為抽出）を対象とした意識調査

問 地域で支えられていると感じること

地域に支えられることが「大いにある」「多少はある」と感じる割合の合計

令和元年度調査

39.7%



令和4年度調査

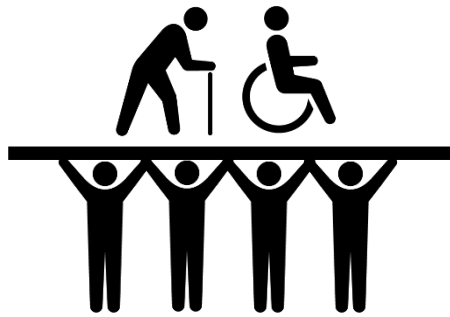
36.8%



少子高齢化に伴い、ご近所づきあいを基盤とした地域コミュニティの希薄化も課題とされています。

これからは、地域の「**支え手**」「**受け手**」の垣根を超え、個人・団体を問わずあらゆる主体が連携・協働することによる、**持続可能な社会の仕組みづくり**が必要とされています。

【これまでの社会構造】



【めざす姿】



- 包括的な支援体制の整備
- 地域共生社会の実現

【 本日本日お伝えしたいこと 】

- これからの超少子高齢化の社会において、住民を取り巻く生活環境は、どう変化していくか
- “包括的な相談支援” が必要とされる理由

■ 藤沢市での体制づくり



【 藤沢市は・・・ 】 ～ 地域共生社会の実現に向けた取組 ～

目指す将来像

「誰もが、住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けることができるまち」

誰もが

子ども、若者、子育て世代、高齢者など全世代を対象としています。

住み慣れた地域で

市内13地区ごとに、各地区の持っている強みを生かした地域づくりを支援します。

その人らしく

心身の状況や経済状況など、それぞれの立場を尊重し、支えあう地域をめざします。

安心して

身近な地域で、お困りの時に気軽に相談できる場所、専門職など、暮らしを支える仕組みを整えます。

※ 「藤沢型」地域包括ケアシステムとは

地域包括ケアシステム … **高齢者**を対象

「藤沢型」地域包括ケアシステム … **すべての人**を対象



「藤沢型」は、地域包括ケアシステムの考え方を、
全世代・全対象に広げ、様々な取組を進めています。

“藤沢型” 地域包括ケアシステム

1 全世代・全対象型地域包括ケアシステム

子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者等、すべての市民が対象

2 地域の特性や課題・ニーズに応じた取組

13地区ごとに、地域で培った文化、歴史等の特性を活かしつつ、人口構造の変化や社会資源の状況に応じたまちづくり

3 地域を基盤とした総合的・包括的な相談支援体制 (社会的孤立や制度の狭間の問題にも対応)

支援を必要とする人が、身近な地域で確実に支援を受けられることができる、相談支援体制の確立

「地域共生社会」
の実現をめざす

「藤沢型地域包括ケアシステム」の推進にあたっては、分野横断的に取り組むべき**6項目**を重点テーマとして設定し、庁内横断的な連携や多様な主体との連携により、課題解決に向けた取組を推進しています。

庁内

藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた庁内検討委員会

外部

藤沢型地域包括ケアシステム推進会議

重点テーマと
主な取組

① 地域の相談支援体制づくり

- ◎ 多機関協働による相談支援ネットワーク強化
- ◎ 相談窓口へのアクセスの円滑化

② 地域活動の支援・担い手の育成等

- ◎ 地域生活課題等の解決に向けた協働の推進
- ◎ 地域活動等への参加推進に向けたアプローチ

③ 健康づくり・生きがいづくり

- ◎ 健康寿命延伸に向けた健康づくりと介護予防の一体的な推進
- ◎ ライフステージに応じたフレイル予防の普及啓発
- ◎ 身近な地域における楽しみを起点とした健康・生きがいづくりの推進

④ 在宅生活の支援

- ◎ 認知症フレンドリー社会の推進
- ◎ 多職種・多機関と連携した全世代にわたる医療政策の推進
- ◎ 地域における見守り体制の強化・充実
- ◎ 誰も取り残さない災害時の支援体制づくり

⑤ 社会的孤立の防止

- ◎ 地域社会から長期的に孤立している方への継続的な支援の仕組みづくり
- ◎ 地域とつながるための社会参加支援

⑥ 環境整備等

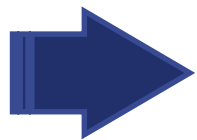
- ◎ 外出しやすい環境づくりの推進
- ◎ 円滑に住まいに入居できる取組の推進

【共通基盤】 行政と多様な主体との協働による支えあいの地域づくり

【 藤沢市は・・・ 】 ～ 包括的な支援体制と 重層的支援体制の整備 ～

- 相談ごとに対し、まずはしっかり話を聞き、
そして、適切な部署につなぐ
… 『 連携 』 ※ **相談と支援は別！
相談を受けた部署が、すべての支援
を行うことではない**
- 必要に応じて、重なりながら支援を行う

… 『 協働 』



**世代・分野を超えた
相談支援を目指す**



地域共生社会の実現 = 藤沢型地域包括ケアシステムの取組

制度・分野
の枠組
を超える

3つの基本理念

- (1) 全世代・全対象型
- (2) 地域の特性に応じたまちづくり
- (3) 地域を拠点とした相談支援

6本の重点テーマ

- ① 地域相談支援体制づくり
- ② 地域活動の支援
・担い手の育成
- ③ 健康づくり
・生きがいづくり
- ④ 在宅生活の支援
- ⑤ 社会的孤立の防止
- ⑥ 環境整備等

包括的支援体制の整備

複合化・
複雑化した
ニーズに対応

断らない
相談支援

重層的支援体制整備事業

包括的
相談支援

参加支援

地域づくり
支援



「支え手」
「受け手」
の枠組
を超える

相談支援の課題



相談支援の目指す体制



<相談を受ける側>

<相談する側>

縦割り

たらい
廻し

制度の枠

抱え込み

課題が複合化
・複雑化

既存の制度では
対応できない課題

孤独・孤立

狭間

<相談する側>

- 相談したところで、話を聞いてもらえる
- 課題の解決に適切な部署につながる
- いろいろな課題があっても、それぞれに支援者がいて、それぞれが情報共有してくれる

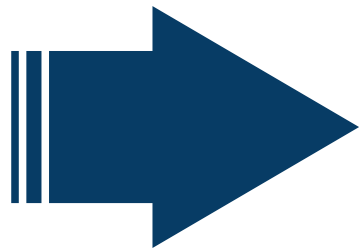
<相談を受ける側>

- ◆ 自分の部署（機関）がすべてを解決しなくてよい
- ◆ 他の機関の機能がわかる
- ◆ まずは話を聞く、受け止める
- ◆ 様々な機関が重なり合って支援する

包括的
相談支援
体制

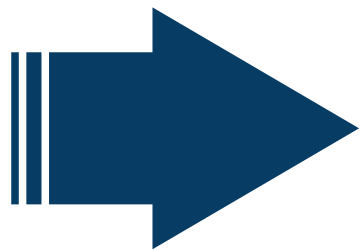
【 藤沢市は・・・ 】 ～ 一旦、まとめ（前半）～

- 地域共生社会の実現に向けて



全世代型の地域包括ケア

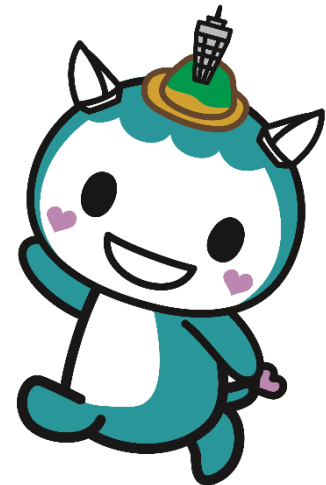
- 包括的な相談支援体制づくりと重層的支援体制の整備



多機関が必要に応じて“重なり”ながら、“のりしろ”を作りながら、相談支援に対応

ここからは、藤沢市における具体的な取組を
交えてご紹介いたします。

- ① 藤沢型地域包括ケアの庁内推進体制
- ② 日常生活圏域ごとの相談支援・地域づくり
- ③ 孤独・孤立対策
～支援の「はざま」を埋める取組～



① 藤沢型地域包括ケアの庁内推進体制

庁内検討委員会



- 年4回程度開催
- 各部総務課および関係課で構成
- 各部局ごとの情報交換、藤沢型地域包括ケアの基本的な方向性の検討

専門部会



- 6項目の重点テーマごとに年2回程度開催
- テーマごとに、関係する課等が参加
- 各課等が抱える課題や取組の情報交換、分科会で行う取組の検討

分科会



- 専門部会や、各課からの発案などで立ち上げられた、課題解決プロジェクト
- 分科「会」としているが、必ずしも会議を行っているわけではなく、課題に応じた取組を進めている
- 関係する複数の課が参加し、地域の団体や企業等と協働して取組を推進

(主な分科会テーマ)

相談支援、ボランティア支援、ヤングケアラー、ひきこもり、地域防災、居住支援など・・・

① 藤沢型地域包括ケアの庁内推進体制

総務部	行政総務課
企画政策部	企画政策課 デジタル推進室
防災安全部	防災政策課 危機管理課 防犯交通安全課
市民自治部	市民自治推進課 (各センター) 市民相談情報課
生涯学習部	生涯学習総務課 (公民館)
福祉部	福祉総務課 介護保険課 障がい者支援課 生活援護課 地域共生社会推進室
健康医療部	地域医療推進室 地域保健課 健康づくり課 保健予防課
子ども青少年部	子育て企画課 子ども家庭課 保育課 子育て給付課 青少年課
環境部	環境総務課 環境事業センター
経済部	産業労働課 農業水産課
計画建築部	建設総務課 都市計画課 住宅政策課
教育部	教育総務課 教育指導課

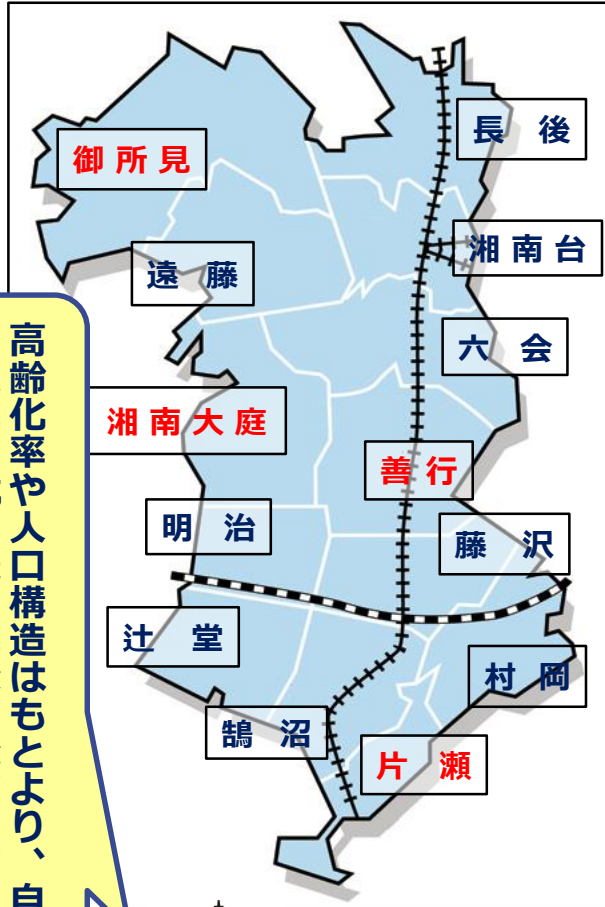
**※藤沢市社会福祉協議会
オブザーバーとして参加**

これまでの主な取組（重点テーマごと）

重点テーマ	これまでの主な取組
①地域の相談支援体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 全13地区にコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置 相談支援窓口の設置・拡充（福祉総合相談支援センター、北部福祉総合相談室、バックアップふじさわ、障がい者地域相談支援センター、サテライト型地域包括支援センターなど） 庁内に向けた相談対応に関する研修
②地域活動の支援・担い手の育成等	<ul style="list-style-type: none"> 協議体・地域ケア会議など、各地区における地域生活課題を協議する場の設置・充実 「地域の縁側」を中心とした身近な居場所・交流・相談の拠点づくり ボランティアの参加促進に関する取組
③健康づくり・生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> 多職種と連携したフレイル・オーラルフレイル予防の推進 民間企業等多様な主体と連携した健康づくりの推進 健康づくり・介護予防に関する市民参加の促進
④在宅生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> 藤沢おれんじプランの作成と、認知症にやさしいまちづくりの推進 在宅医療・介護連携の推進（多機関協働による包括的支援体制の構築） 障がい児者等の、在宅医療や在宅生活の課題解決に向けた取組の推進 終活や見守りに関する、民間企業・商店・団体等との連携
⑤社会的孤立の防止	<ul style="list-style-type: none"> ケアラー・ヤングケアラーやひきこもりに関する相談窓口の明確化 農福連携による、多様な社会参加の推進 地域団体等と福祉関係の事業者が連携し、社会参加を支援する取組を実施
⑥環境整備等	<ul style="list-style-type: none"> 交通空白地に対する、様々な形での移動支援の展開 新たな住宅セーフティネット制度に基づく、居住支援協議会の設置 地域の衛生面に配慮した住環境を維持する仕組みを検討

② 日常生活圏域ごとの相談支援・地域づくり

13地区ごとの高齢化率



高齢化率や人口構造はもとより、自治会加入率、就学援助率などにより、地区によって特性がかなり異なります。



順位	2020年		2025年		2030年	
	地区 (65歳以上人口)	高齢化率	地区 (65歳以上人口)	高齢化率	地区 (65歳以上人口)	高齢化率
1	湘南大庭 (10,440人)	33.0%	湘南大庭 (10,602人)	34.5%	湘南大庭 (10,505人)	35.9%
2	御所見 (5,508人)	30.9%	御所見 (5,433人)	31.4%	片瀬 (6,211人)	33.3%
3	片瀬 (5,681人)	28.7%	片瀬 (5,806人)	30.0%	善行 (12,711人)	32.1%
4	善行 (11,600人)	27.8%	善行 (11,958人)	29.2%	御所見 (5,319人)	32.0%
5	長後 (9,024人)	27.1%	長後 (9,019人)	27.3%	遠藤 (3,512人)	28.5%
6	鶴沼 (14,111人)	24.4%	遠藤 (3,144人)	25.8%	長後 (9,120人)	28.0%
7	遠藤 (2,883人)	24.2%	鶴沼 (15,217人)	25.2%	鶴沼 (17,010人)	27.4%
8	藤沢 (10,892人)	23.3%	明治 (7,657人)	24.2%	明治 (8,550人)	26.7%
9	辻堂 (9,885人)	22.5%	藤沢 (11,334人)	23.5%	六会 (9,430人)	25.0%
10	明治 (6,893人)	22.4%	辻堂 (10,623人)	23.1%	藤沢 (12,200人)	24.6%
11	村岡 (7,001人)	22.2%	六会 (8,595人)	23.0%	辻堂 (11,723人)	24.0%
12	六会 (8,101人)	22.1%	村岡 (7,380人)	22.3%	村岡 (8,062人)	23.5%
13	湘南台 (6,431人)	19.6%	湘南台 (7,086人)	20.2%	湘南台 (8,058人)	21.9%

※ 2020年の国勢調査に基づく「藤沢市将来人口推計」より

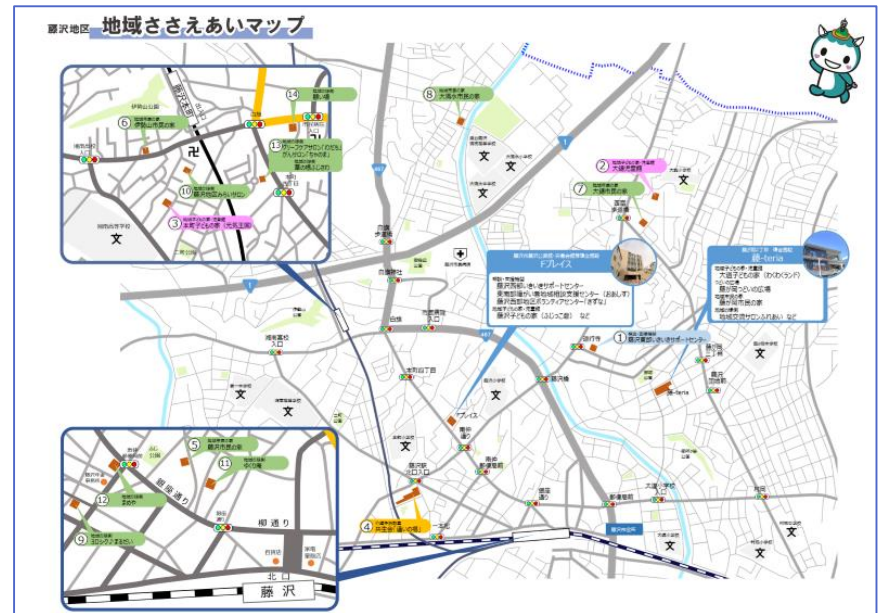
日常生活圏域（13地区）ごとの取組

藤沢市内でも、13地区ごとに特徴や課題はそれぞれ違います。そのため、13地区ごとの状況を踏まえた取組を推進することで、地域のニーズにあったサービスの提供等につながります。藤沢型地域包括ケアを推進するために、各地区の会議等において、地域団体等と課題を共有したうえで、地域の多様な主体と協働し、様々な取組を進めています。

取組の一例



地域の見守りをテーマにした交流会
(鵜沼地区)



藤沢地区の地域資源を紹介するマップ

地域を基盤とした相談援助と地域づくり支援（市社協CSW）

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）とは、地域のさまざまな困りごとに対して、「個別支援」と「地域支援」の双方の視点から支援を行い、支えあいの地域づくりのサポートをする専門職です。

市が、市社会福祉協議会に委託する形で、2016年4月から事業を開始し、以後拡充を進め、2020年に全13地区に配置しました。



C コミュニティ **S** ソーシャル **W** ワーカー

(バグアッフふしさわ社協)
「どこに相談していいのかわからない…」

に相談してみませんか

CSWとは

今ある制度では解決しにくい困りごとを抱えている方に寄り添い、一緒に考え、その解決に向けてお手伝いをします。
また、一人ひとりの支援に加え、地域づくりのパートナーとして、地域の皆様のささえあいの支援を行います。

お金のこと
仕事のこと
家族のこと
暮らしのこと
etc..



どのようなお困りごとでもご相談ください

個別支援

地域支援

さまざまな生活のこと

+

地域のこと

相談するには

相談は無料です。まずはご連絡ください。
電話相談やご自宅等ご都合のよい場所に訪問し、相談をお受けします。

- ・新しい活動を始めたい
- ・隣近所で交流する場がほしい
- ・地域貢献活動をしたい
- など..

社会福祉法人 藤沢市社会福祉協議会
地域支援担当 コミュニティソーシャルワーカー

☎ 0466-47-8131

〒251-0054
藤沢市朝日町1-1 藤沢市役所分庁舎1階

月～金(祝日年末年始除く)
8:30～17:00

総合的・包括的な相談支援機能の強化

基幹的機能・全市展開

バックアップ ふじさわ

(自立相談支援事業 市直営)

- ・自立相談支援員
- ・就労支援員
- ・住宅支援相談員
- ・子ども支援員 (生活援護課に配属)

平成26年11月～

- ◎ 子どもの学習・生活支援
 - ◎ 就労準備支援
 - ◎ 家計改善支援
 - ◎ 一時生活支援
- をNPO法人や社会福祉法人等に委託して連携

よりきめ細かく地域展開

バックアップ ふじさわ社協

(自立相談支援事業 委託)

- ・自立相談支援員
- ・コミュニティソーシャルワーカー
- ・生活支援コーディネーター

平成28年4月～

伴走型
の支援
を展開

- **専門性の強化と、制度の狭間にも対応するための相談支援体制を整備。** 民生委員や地域包括支援センター、障がい者地域相談支援センター、子育て支援センター、学校教育相談センターなどの支援関係機関をはじめ、地域の縁側、地区ボランティアセンター、子ども食堂など、地域のインフォーマルな活動とも連携してネットワークを構築。農・福連携をはじめ、民間との協働による新たな仕組みづくりも実施。

地域をつくる新しい役割・機能



地域の縁側（ちいきのえんがわ）

誰もが気軽に立ち寄ることができ、地域の相談窓口としての機能も備えた多世代交流の場。多様な主体が工夫を凝らし、地域のインフォーマルな力と協働して運営。市と市社協が立ち上げや運営を支援し、小学校区に1か所以上を目標に整備中。ボランティアポイント制あり。

基本型

高齢者、障がい者、子ども等、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場。最も基本的な地域の縁側だがコンセプトは様々。

特定型

特定の世代や属性を対象とした交流の場。高齢者、子育て世代、障がい児者、がん患者と家族など。

基幹型

地区内の「地域の縁側」の中核機能を持つ、高齢者、障がい者、子ども等、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場。生活支援コーディネーターを配置し、一般介護予防事業も実施。



地域の縁側 ～実践事例 多種多様なコンセプト～

「たきパラ食堂」も
始めました！



(ヨロシク♪まるだい)

運営形態は、空き店舗活
用型、公共施設一部利用
型、自宅開放型、企業と
の連携型など様々で、運
営主体も地域団体、住民
グループ、NPO法人、社
会福祉法人など多種多様。



(たきのさわパラダイス)

子どもと地域の大人をつなぐ みんな
の居場所です。



(地域交流サロン「ゆい」)

② 日常生活圏域ごとの相談支援・地域づくり

立場や分野を超えた支えあいのための連携・つながりづくりの事例



連携・つながりづくり(湘南大庭地区)

地域の縁側

学習支援

CSW(コミュニティソーシャルワーカー)



(交流スペースまっと舎主催の敬老会)



(CSWがらわれあいサロンに参加)



(大庭教室)



子どもと地域の大人をつなぐ居場所
(たきのさわパラダイス)

団地を活用した介護サービス



地区ボランティアセンター



(ライフタウン・ジョワ)

(小規模多機能“ぐるんとびー”)

③ 孤独・孤立対策～支援のはざまをうめる取組～

◎ 孤独・孤立対策推進法の施行（令和6年4月）

（地方公共団体の責務）

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、孤独・孤立対策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内における**当事者等の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。**

【藤沢市は・・・】

藤沢型地域包括ケアの専門部会・分科会などの機能を活かし、 他分野・多職種による連携、複合的な課題に対応

市内

藤沢型地域包括ケアシステムの
推進に向けた市内検討委員会

外部

藤沢型地域包括ケア
システム推進会議

重点テーマと
主な取組

① 地域の相談支援体制づくり

- ◎ 多機関協働による相談支援ネットワーク強化
- ◎ 相談窓口へのアクセスの円滑化

② 地域活動の支援・担い手の育成等

- ◎ 地域生活課題等の解決に向けた協働の推進
- ◎ 地域活動等への参加推進に向けたアプローチ

③ 健康づくり・生きがいづくり

- ◎ 健康寿命延伸に向けた健康づくりと
介護予防の一体的な推進
- ◎ ライフステージに応じたフレイル予防の
普及啓発
- ◎ 身近な地域における楽しみを起点とした
健康・生きがいづくりの推進

④ 在宅生活の支援

- ◎ 認知症フレンドリー社会の推進
- ◎ 多職種・多機関と連携した全世代にわたる
医療政策の推進
- ◎ 地域における見守り体制の強化・充実
- ◎ 誰も取り残さない災害時の支援体制づくり

⑤ 社会的孤立の防止

- ◎ 地域社会から長期的に孤立している方への
継続的な支援の仕組みづくり
- ◎ 地域とつながるための社会参加支援

⑥ 環境整備等

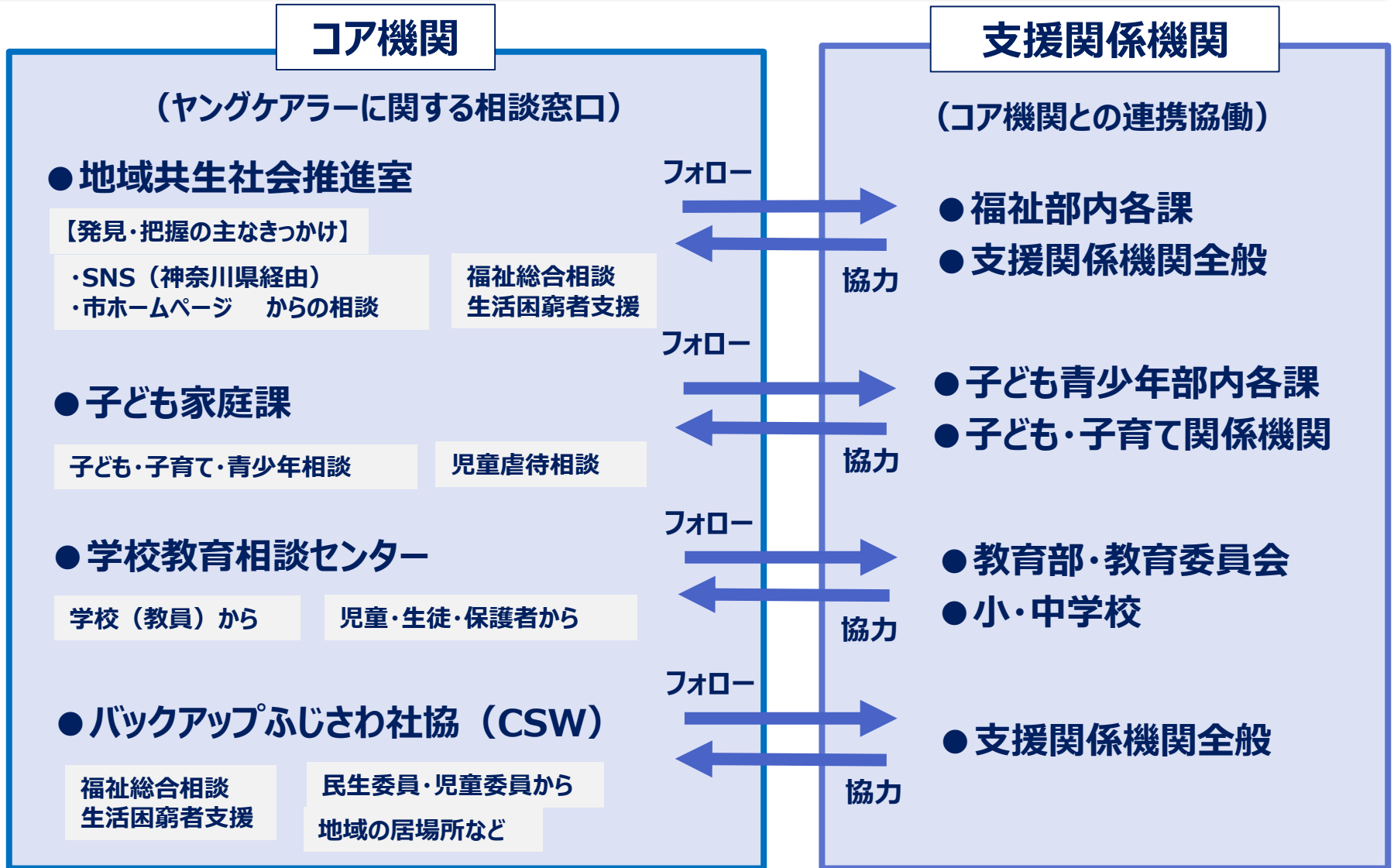
- ◎ 外出しやすい環境づくりの推進
- ◎ 円滑に住まいに入居できる取組の推進

【共通基盤】 行政と多様な主体との協働による支えあいの地域づくり

庁内分科会「ヤングケアラーへの支援」 主な取組・検討事項

カテゴリー	取組・検討事項
周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・一般向け啓発 <ul style="list-style-type: none"> 民生委員児童委員等、地域への啓発 啓発パネル展示 ヤングケアラーに関するリーフレット作成
相談窓口や役割の明確化、ネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> 支援関係機関向け研修会 ・庁内外の連携体制の整理 <ul style="list-style-type: none"> 発見・相談～支援の流れを整理 相談窓口の見える化
ニーズ把握・サポート体制拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインサロン等、当事者が相談できる場の整備 <ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した相談ツール（神奈川県と連携） ・既存の福祉制度サービスの整理 <ul style="list-style-type: none"> 現状把握、ケアラー支援への活用に向けた検討

庁内分科会「ヤングケアラーへの支援」 窓口の整理・連携イメージ



※コア機関は、必要に応じて課題共有し、支援検討のための会議を開催する。
 また、課題が複合化・複雑化し、多機関による協働が必要な場合は、「重層的支援会議」も活用する。

いわゆる「ごみ屋敷」への福祉的アプローチ

藤沢市良好な生活環境の確保に向けた支援のガイドライン（2022年4月発行）

【概要】

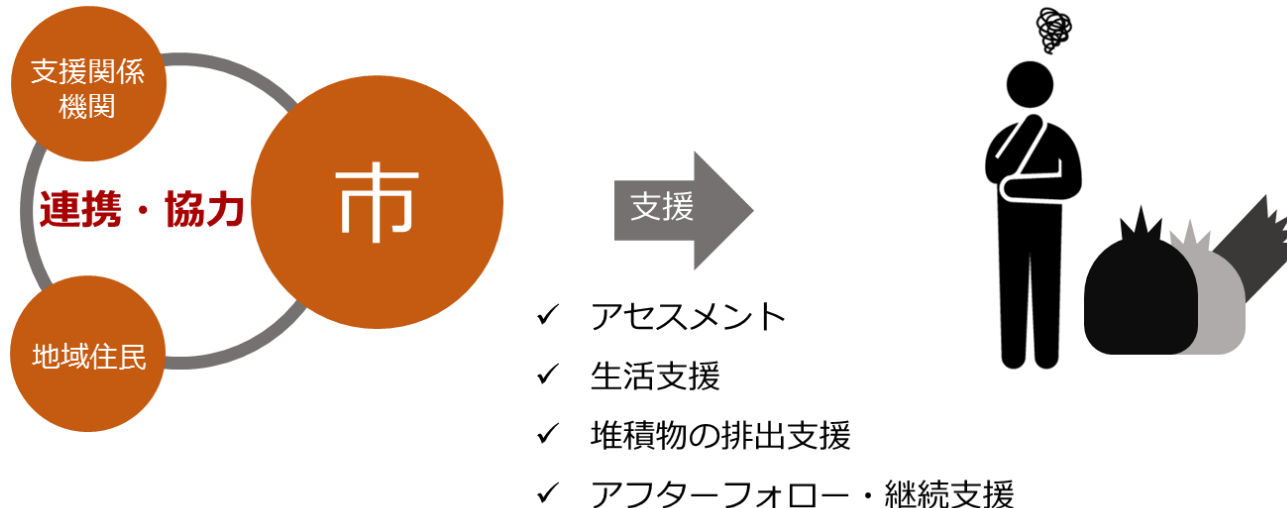
市の関係部局や支援関係機関等が、いわゆる「ごみ屋敷」を生成する世帯が抱える、複合的な生活課題に対する支援を行うためのツールとして作成。

【目的】

いわゆる「ごみ屋敷」を形成する要因（個体要因・社会環境要因）の解決をめざす。

【効果】

- ・ 居住者及び近隣の良好な生活環境の確保
- ・ 地域における孤立状態の解消



多様な社会参加（地域活動・ボランティア）



高齢者や、障がいのある人等が、地域の支え手として活躍している様々な事例があり、行政として、これらの活動をサポートしています。

地区ボランティアセンター

高齢者等の生活上の困りごとや、生きがいづくりをサポートする地域団体。市内12か所設置。

ボランティア参加者の高齢化、新たな担い手の不足が課題の一つとなっています。

▶ 高齢者福祉

×

障がい者福祉

若者・自立支援

【取組】 障がい福祉サービス事業所や自立支援機関と連携して、障がいのある人や自立に困難を抱える若者のボランティア参加を支援。

地域の**担い手確保**と、多様な**社会参加の促進**の相乗効果を狙う。

さらに、様々な効果が・・・

- 地域における障がい等の理解促進
- 世代間交流のきっかけ
- 人に教えることが自分の学びにつながる など

さらに…分野を超えた課題解決の取組例

○住まいに困難を抱える方の入居支援

住宅政策 × 福祉

住宅確保要配慮者（住まいの確保が困難な高齢者・障がい者等）が賃貸住宅に円滑に入居するための支援体制の構築に向けて、行政、不動産関係団体、福祉関係団体（居住支援法人）などで構成する「藤沢市居住支援協議会」を設置（2020年8月～）。



○農福連携

農業 × 福祉

①障がいのある人等の雇用の方としての農福連携

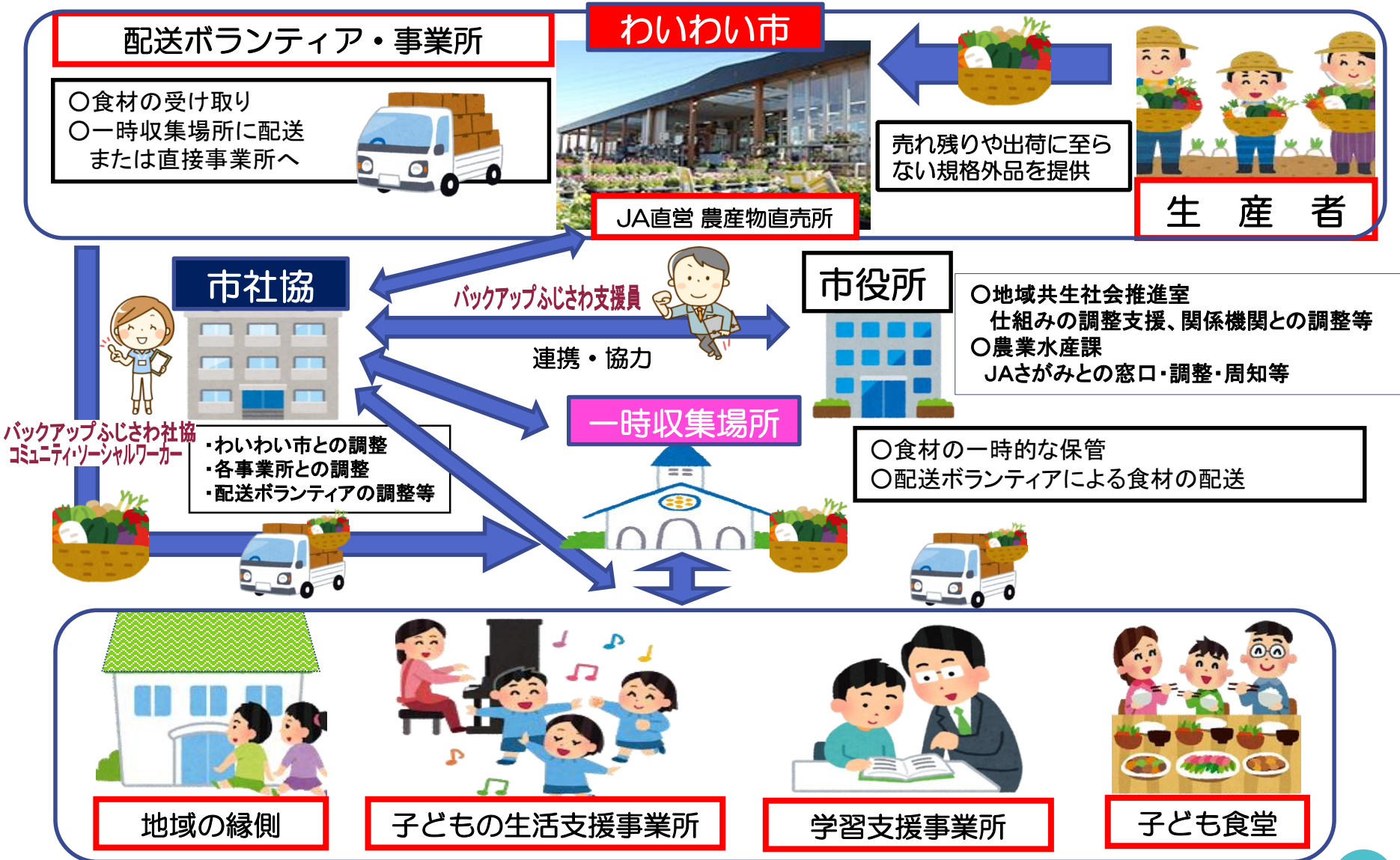
農業分野の担い手不足解消と、障がいのある人やひきこもりの状態にある方などの就労機会の確保に向けて、農家と福祉事業者との連携を進め、就農を促進する。

②食材提供支援

JAと行政、市社会福祉協議会が連携し、福祉活動を行っている団体等に対して食材を提供。



民間・市社協と協力した食材提供支援



民間企業等との協働のイメージ

近年では、企業としての社会貢献に関する責務（CSR）が求められており、様々な企業等が地域活動のサポートを行っています。

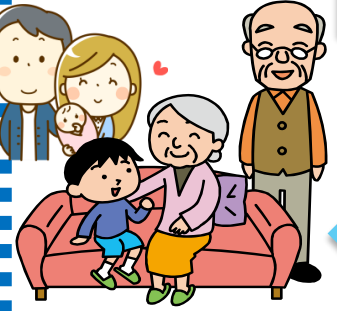
一般的な関係

お客様

料金

民間企業
社会福祉法人
など

サービス



地域貢献

人材派遣

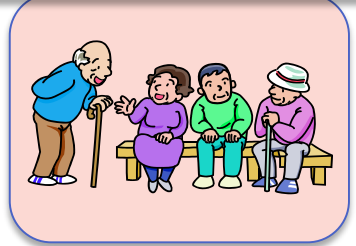
場の提供

運営費補助

公益的事業

地域の団体 等

みんなで勉強したい



活動の場がほしい



子ども食堂をやりたい



- ・クラウドファンディング
- ・テーマ設定型(共同募金)

【まとめ】

■ 超少子高齢化社会

2025年問題

2040年問題

→医療・介護ニーズの拡大
多死社会の到来

■ 生活課題の多様化・複雑化

→支援の「支え手」「受け手」の垣根を超え、持続
可能な社会の仕組みづくりが必要

【まとめ】

■ 藤沢市の体制づくり

- ・全世代型の「藤沢型地域包括ケアシステム」により、
地域共生社会の実現をめざす

→具体的施策：重層的支援体制整備事業の本格実施

- ・身近な地域における相談支援・地域づくり

→コミュニティソーシャルワーカー（CSW）

地域の縁側 など

- ・他分野・多職種による連携により、制度のはざまにある
複合的な課題への取組を推進



ご静聴ありがとうございました。

